

2018年4月号

卯月 うづき

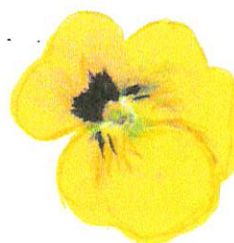
昨夏の猛暑・年末から年明けの寒波。3月に入り少し暖かくなったかと思ったら関東以北で雪。急激な気温の変化に我々はあたふたしてしまいますが植物は季節がよくわかっています。

去年 社の花壇に植えっぱなしにしていたチューリップが可愛い花を咲かせています。花が終わった後 肥料を球根まわりに入れていたのが良かったのでしょう。(お礼肥と云う) その花壇に一本、そして社屋前の道路に桜並木があり3月27日から咲き始め4月5日まで楽しむことができました。

さくらは一度寒さにあたって次ぎの暖気に春が来たと思ひ開花するのだそうです。

《 福岡 3/25 ・ 長崎 3/30 ・ 熊本 4/1 ・ 宮崎 4/2 ・ 鹿児島 4/5 》これは昨年の桜開花の記録です。南部は暖かいので早く咲くのではと思っていましたが暖かい地方の桜はガツンと寒さに合わないの北から開花前線が下っていくのですね。このデータを見ると納得です。

この新聞が皆様の目に留まるころには“さくら”が散ってしまっているのではと思います。そこで後のページはさくらいっぱい画面に致しました。仕事に追われ花見どころではない貴方に贈ります。



🌸 四月誕生日の方 🌸

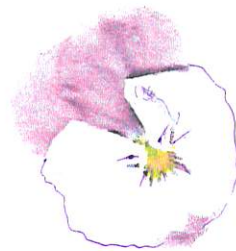
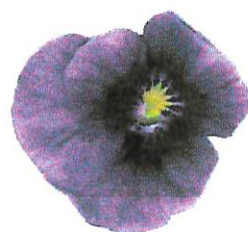
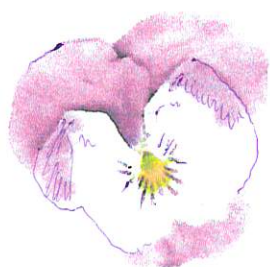
おめでとうございます

寺田社長 17日	戸田様 29日
佐竹様 10日	澤熊様 10日



4月の暦と行事

<p>1日 エイプリルフール</p> <p>4日 あんぱんの日 明治8年木村屋が明治天皇にあんぱんを献上した日</p> <p>5日 清明 草木に花が咲き始め明るい気が溢れる</p> <p>8日 はなまつり お釈迦様の誕生を甘茶をかけて祝う</p> <p>10日 駅弁の日 この日は観日本鉄道構内営業中央会が制定・7/16の駅弁記念日とは別</p>	<p>14日 2016年熊本地震 (2017年4月号参照) 3月に菊地溪谷の一部が復旧</p> <p>20日 穀雨 春雨が多くなり田畑を潤し穀物の種蒔き時</p> <p>25日 国際盲導犬の日 毎年四月の最終水曜日。盲導犬の普及、理解をめざす</p> <p>29日 昭和の日 昭和天皇の誕生日 来年の30日で平成が終わります</p>
---	--



今年 1月12日に『広辞苑』第七版が出版されました。

突然 私事で申し訳ありませんが辞書にはいささかの 思い入れが有ります。

大正生まれの父は学校に行かせてもらえず 幼い頃から転々と奉公に(今では死語かな)出されたため読み書きに苦勞をしたそうです。「新聞の読めない字を辞書で引いて勉強したよ」と使い込まれた小さな辞書を見せながらよく私に話しをしていました。そんな父の字は驚くほどきれいできちんとした字だったことを覚えています。

1964年昭和39年そう、東京オリンピックの年。私が高校を卒業する少し前、学校を通して広辞苑の第一版第十刷の購入案内が配布されました。父に見せると即決で申し込みをするようにと言いました。今見ると定価2300円と書いています。そのころの我が家の経済状況を考えると とても高価な買い物だったと思います。

今では箱も黒いカバーもなく青い表紙のままになってしまいましたが、幼稚園児だった孫が遊びに来た時 色々質問をされるたびに広辞苑を出して調べ説明してやると辞書にとっても興味を持ちました。

辞書の引き方を教えると来るたび出して何かを調べるようになりました。私ものぞきこんで難しい字の読み方やことわざ等の意味を教えたりするのがとても楽しく 父と同じことをしていることに思わず笑みがこぼれました。

広辞苑のすごい所は時代の流れと共に掲載内容が増えているにもかかわらず本の厚さが変わらない。

と言うことは紙が薄い、薄いのに活字が裏に透けていない。自分が購入したときにも他の辞典に比べ

この紙薄い!と思ったのですが現在のものは当然ながらもっと薄いのです。

我が国の紙漉き技術は世界最高と言われていますが、この薄さ・丈夫さの紙を開発するのに大変なご苦勞が有ったのではと勝手に深読みをしています。

近頃は電子手帳やインターネット等で調べ物も簡単なので辞書を引く機会も少なくなりましたね。

次ページへ



でも 広辞苑にはもう一つの楽しみも有るのです。
挿絵のすばらしさです。

後記

ここで 私なりの広辞苑の楽しみ方を一つ紹介します。

ランダムに挿絵の有るページを開きその絵を鑑賞、
そのまわりにどんな意味のものが書かれているかを
見て行くと思わぬ発見があるのです。

そうして見ていってもこの何万項目の内の数%にも
あたらないかもしれませんが・・・。

調べたい所だけしか見ないのはとてももったいない
のではと改めて感じています。

今回、後書きが気になり読んでみました。

编者や編集に携わったスタッフの皆様の計り知れ
ない努力と思いがこの後書きの4ページに込められて
いるのを53年もたって始めて気づきました。

初版の後書きを左部に一部紹介いたします。

古いことば使い、今ではなかなか使わない熟語が

沢山有りますのでこの機会に皆さまそれぞれ辞書で

調べてみてはいかがでしょうか？

— 漢字の読み

茫然 (ぼうぜん)

妄執 (もうしゅう)

焦土 (しょうど)

欣快 (きんかい)

開關 (かいびやく)

餓卒 (がひょう)

怨嗟 (えんさ)

迂遠 (うえん)

訃音 (ふいん)

憂慮 (ゆうりょ)

昭和十年の初頭以来、粒々の辛苦を積んで完成を急ぎつつあった改訂辞苑の原稿も組版も、二十年四月二十九日の戦火に
跡形もなく焼け失せ、茫然たる編者の手許にはただ一束の校正刷のみが残された。しかも戦火に続く敗戦と戦後の混乱とは、
如何に辞典に妄執を抱く編者を以てしても、直ちに復興を企図し得べき底のものではなかった。焦土の余熱は、容易に冷ゆ
べくもなかったのである。

然るに倅なる故、同年十二月、当時元気に活躍せられつつあった岩波書店主故岩波茂雄氏と編者との間に、早くも辞苑の
改訂に関する協定成り、一陽来復、編者として欣快のこれに過ぐるものはなかった。

他面、当時の国内情勢は、恐らく開關以来最悪の事態におかれて居た。餓卒路に横り、怨嗟の声巷に満つるを見聞しては、
辞典改修のごとき迂遠なる事業の、未だその時機に非ざるを観念せざるを得なかった。更に翌二十一年四月、岩波茂雄氏の
突如たる訃音に接しては、出版界の先覚を喪失するの悲しみと共に、本事業の前途も亦多難なるべきを秘かに憂慮したので
ある。

併し、越えて二十三年季春、先考の志を襲いで岩波書店を継承せられた岩波雄二郎氏を始め幹部の各位は、文化の再建途
上における辞典の重要な役割を認識して辞苑改修の促進方針を決定せられ、編者はこれに基き、同年九月十三日、書店内の
一室を借りて新編集部を開設し、茲に事業の再発足を見得るに至ったのである。

※ 1つ残念な事があります。

書店でもらった岩波書店のパンフレットに【言葉の変化、意味の違いをみつめる】として世の中の激しい動きにともない、
言葉の意味も変化していく。

①新しく生じた意味はその定着度を吟味しながら過不足なく加えた。

②言葉の意味を的確に把握し表現したいというニーズも増えています。

①を考へてみる。言葉の解釈が明らかに違っているが 多くの人がある間違った方の意味で使用が定着している。
しかし大勢がその方向になっているから あながち間違いではないとして辞書に載せている事に大きな疑問と空しさを感じます。
①は本当の意味を知ってか知らずか考えずに使ったものが間違えたまま 次々と広がって行ってしまった。
新しく生じたのとは明らかに違うのでは？ このように大勢に流されることは進歩的なのでしょうか？

②を考へるのであればこれこそが辞書の大きな役目ではないのか。間違った事を孫に教えないために確認する指針・
術が辞書なのであるから。辞書を作るにあたり 間違った意味を載せないよう正誤調査することに一番時間を割いて
いるのではないのでしょうか。だとしたら知らずに使用している人々には時間がかかってもこちらが正しいですよと
教えて欲しい。「情けは ひとのためならず」の“ことわざ”の解釈を間違えている方が多いのを知っていますか。

①の考え方で行くとその間違った解釈がまかり通るのも 時間の問題であろう、となげいている今日この頃です。
(辞書などを引かずに意味を考へてみて下さい) その後、正しいかどうか調べてみて下さいね。